

VI. 「長崎原爆の被害に関する科学的データ」の ホームページ作成と運用

近藤久義

【はじめに】

近年における情報通信技術の目覚ましい発展と普及は、情報伝達の様相を一変させようとしている。折しも、世界では“インターネット”と呼ばれるコンピュータネットワークが注目され始めている。インターネットは、1980年代までは一部の研究者が利用するアカデミック・ネットワークにすぎなかったが、世界の様々な企業が参加するにつれ、国境のないWorldwideなメディアへと発展し、社会的にも重要視されつつある。広い意味でのインターネットには、1995年の時点で168カ国、4,000万人以上の利用者がいると言われている。また、1993年頃からは従来のUNIXベースのワークステーションだけでなく、Windowsベースのパソコンやマッキントッシュ・パソコンでも利用できるようになり、インターネットは、近い将来更なる発展を遂げることが予想される。全世界でのパソコンの普及率を考えると、数年後には6,000万人以上の人々が国境のない巨大メディアを共有することになり、インターネットは世界に向けての情報発信の場となる。このような状況の下、原爆資料センターでは総合情報処理センターの花田英輔氏との共同作業によりインターネット上に「長崎原爆の被害に関する科学的データ」のホームページを作成し、全世界に向けて情報発信をおこなった。

【経緯】

1995年は原爆被爆50周年となる節目の年であり様々な記念行事や事業が実施された。原爆資料センターでも、長崎大学医学部原爆復興50周年医学同窓記念事業会の助成のもと医学部原爆復興50周年記念事業の一環として、展示資料の全面改訂をおこなった。改訂の詳細については別稿を参照していただくとして、改訂された展示資料は、原爆が人類にもたらしたものの本質を短時間で感得してもらえるものであるとスタッフ一同、その内容、体裁ともに自負していた。また、改訂された展示資料については、より多くの人々に見てもらうためにパンフレット化やスライド化が計画されていた。このような折、本学総合情報処理センターの花田氏から氏がインターネット上に立ちあげていたWWWサーバを通じて外国から原爆に関する問い合わせがあり、原爆に関する情報の提供不足を痛感したので、原爆に関するホームページを作成したいので協力して欲しいとの申し入れがあった。花田氏の申し入れに対してセンター内で慎重協議した結果、展示資料を中心とした原爆に関するホームページを協同して作成するとの方針が定められたが、この決定に至った主な理由は以下の通りであった。

1) 原爆（特に長崎原爆）の被害に関する科学的データを簡潔に表現したホームペー

ジがインターネット上に存在しない。

2) 改訂された展示資料が、インターネット上に公開するための体裁（グラフィック表示と英語表現）を整えている。

3) インターネット上に公開することにより、より多くの人々に原爆被害の実相を理解してもらえらる。

4) 原爆被爆者のプライバシーが侵害されることはない。

ホームページの作成にあたっては、資料センターは資料の収集と選定を主に担当し、技術的な作業は花田氏に担当していただき、1995年10月5日午前0時を期してホームページを全世界に向けて公開することができた。

【構成】

「長崎原爆の被害に関する科学的データ」のホームページは、インターネット上の代表的な情報伝達方式であるWWWにおけるマルチメディアのハイパーテキスト画面用の言語であるHTML (Hyper-Text Markup Language)により記述されており、NetscapeなどのWWWの画面を見るためのブラウザと呼ばれるプログラムがあれば、世界中どこからでもアクセスできるようになっており、日本語版と英語版が用意されている。ホームページでは、原爆被害を物理的側面と医学的側面、疫学的データに大分類し、医学的側面についてはさらに急性期と後障害初期と後障害後期に分類している。ホームページの構成を図1に示す。

1996年1月末現在の総データ量は27.8MB、HTML本文のファイル数は165、画像ファイル数は145である。

【運用状況】

1995年10月5日の公開から96年1月31日までの約4カ月間（119日）に、27ヶ国、1,612台（延べでは2,206台）のホスト機からのアクセスが記録されており、一日当たり少なくとも18～19名の人が本ホームページを参照していることになる。表1に国別の参照元ホスト数を示す。参照元ホストにおける海外のホストの数は651台であり、全体の約40%を占めている。国別では、インターネット先進国であるアメリカやカナダからの参照が多いのは当然ではあるが、オーストラリアやブラジル、アイスランド、南アフリカのような地理的に遠く離れた国からも参照されており、インターネットの面目躍如というところである。ホームページを作成した側にとって、社会事象が運用状況に及ぼす影響については関心が持たれる。同期間中には、フランスの核実験や長崎・広島両市長による核兵器使用の国際法違反発言などの“核”に関するトピックが多く発生している。そこで、同期間中の日別の参照元ホスト数を図2に示す。1日当たりの参照元ホスト数では、公開初日である10月5日を除くと、10月17日と11月27日のホスト数の多さが際立っている。この理由は、両日ともに直前にNTTのホームページ中の「日本の新着情報」に本ホームページに関する情報が掲載されたためであると思われる。10月17日と11月27日以外には、ホスト数が特異な日は観察されていないことから、少なくとも本ホームページに関しては、今のところ社会事象と運用状況の間には関連が見られないようである。同期間中におけるアクセス画面総数は11,786であり、1回のアクセスでは平均して5～6画

面が参照されていることになる。図3に1回のアクセス当たりの参照画面数の分布を示す。1回のアクセス当たりの参照画面数で最も多いのは1画面で全体の約30%を占めている。このケースは、原爆に関心を抱いた人に対して、本ホームページの内容が答えられなかったとも考えられ、今後ホームページを運用する際の課題である。図1で示した各参照画面のうち、これまでの参照回数が多い上位10画面を国内および国外別に表3に示す。国内および国外とも最も参照回数が多いのは、被害地図であり、物理的側面を示した画面や資料センターからのメッセージが上位にランクされている。この理由としては、これらの画面がわかり易いこともあるが、いずれの画面もホームページの最初の方にあるということも大きな理由であると思われる。興味深いのは、被曝放射線量と死亡率の画面が、国内では10番目であるのに対して、国外では6番目にランクされていることであり、国外における放射線に対する関心の高さを反映していると考えられる。

【おわりに】

関係各位の協力により、インターネット上に長崎原爆に関するホームページを公開することができたが、どの程度の反応があるのかについては不安であった。しかしながら、報告した運用状況からも理解できるように、予想以上の反響の大きさに驚いていると同時に、本ホームページを更に発展させていく必要性も実感している。幸いにして、平成9年にはインターネット用の専用機を導入予定であり、運用状況の解析結果から、今後行うべき改善や宣伝手法などについても若干の知識を得ることもできたので、これを実現させていきたいと考えている。最後に、世界で唯一の被爆医科大学の関係者として、本ホームページを参照し、世界中の一人でも多くの人が原爆被害の実相を知ることにより、核廃絶と世界の恒久平和に多少なりとも貢献できることを願うものである。

本ホームページへのアクセスおよび御意見・感想は下記まで

URL

<http://www-sdc.med.nagasaki-u.ac.jp/n50/start E.html>

e-mail datactr_a_bomb@ml.nagasaki-u.ac.jp

表1 地域別参照国と参照元ホスト数

地 域	国 名
アジア	日本 (961), マレーシア(4), シンガポール(3), 韓国(2), 台湾(2)
オセアニア	オーストラリア(9), ニュージーランド(3)
中近東	イスラエル(3)
ヨーロッパ	スウェーデン(16), ドイツ(16), フランス(10), イギリス(10), オランダ(10), ノルウェー(8), フィンランド(6), イタリア (3), オーストリア(1), ベルギー(1), ハンガリー(1), アイスランド(1), ポーランド(1), ポルトガル(1)
アメリカ	アメリカ(476), カナダ(53), メキシコ(6), ブラジル (2)
アフリカ	南アフリカ(1)

()内の数字は参照元ホスト数

表2 期間中の“核”に関する主なトピック

日 付	トピック事項
10/3	パグウォッシュ会議に対するノーベル賞決定
10/28	フランス3回目の核実験実施
11/8	長崎・広島市長国際司法裁判所で“核兵器使用は国際法違反”と発言
11/16	国連で核実験即時停止決議案可決
11/23	フランス4回目の核実験実施
12/8	世界終末時計“17分前”から“14分前”へ
12/27	フランス5回目の核実験実施
1/28	フランス6回目の核実験実施
1/30	フランスの核実験終了宣言

表3 参照回数の多い画面の比較

順位	国 内	国 外
1	被害地図(592)	被害地図(304)
2	センターからのメッセージ(378)	センターからのメッセージ(234)
3	爆風による影響と被害(261)	爆風による影響と被害(183)
4	放射線による影響と被害(218)	放射線による影響と被害(95)
5	熱線による影響と被害(184)	熱線による影響と被害(94)
6	外傷・熱傷(152)	被曝放射線量と死亡率(89)
7	原爆死傷者数(135)	原爆死傷者数(88)
8	被害者データベース(129)	被害者データベース(70)
9	ケロイド(123)	外傷・熱傷(61)
10	被曝放射線量と死亡率(112)	医学的総説(56)

()内の数字は延べ参照回数

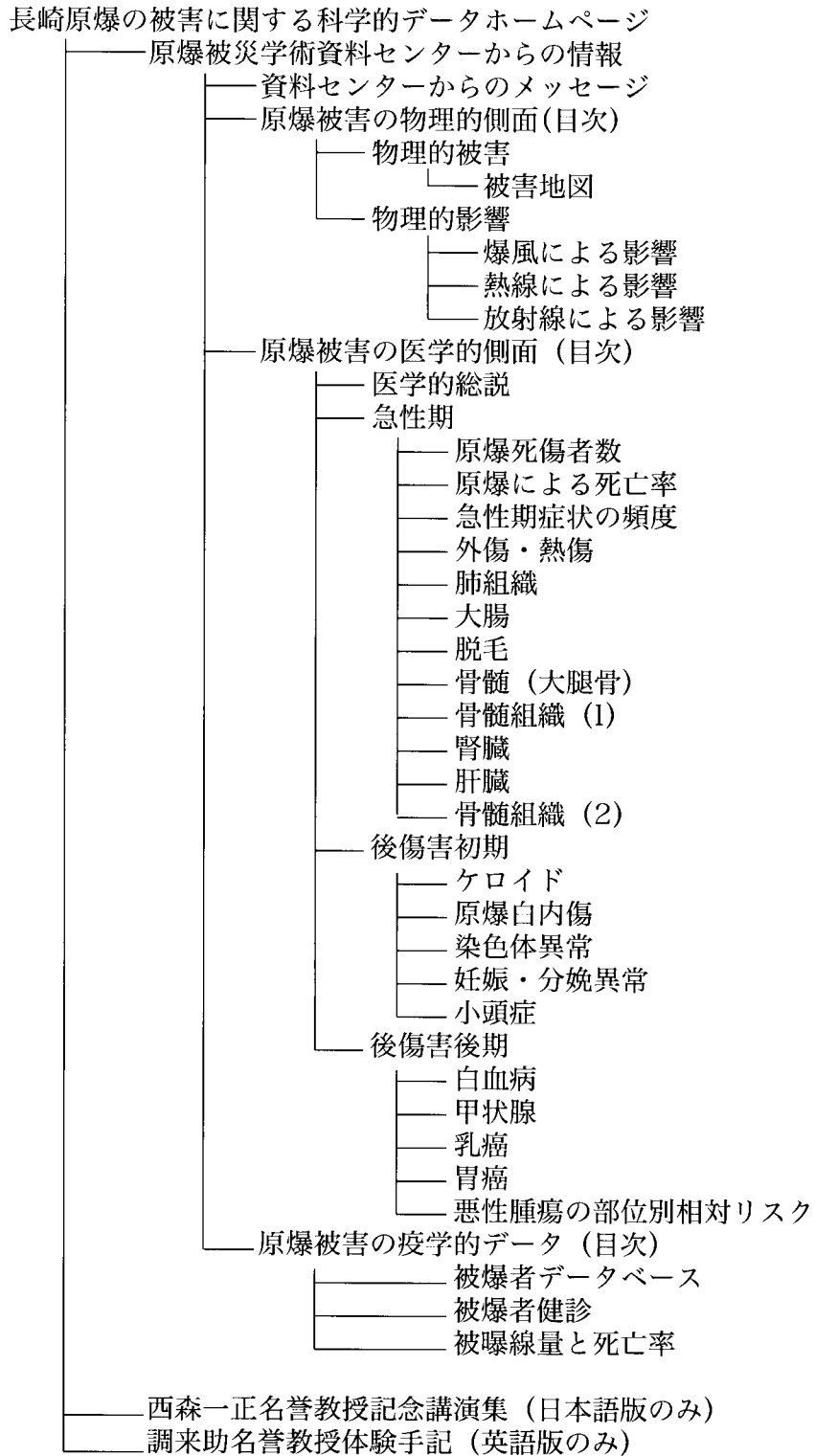


図1. 長崎原爆の被害に関する科学的データホームページの構成

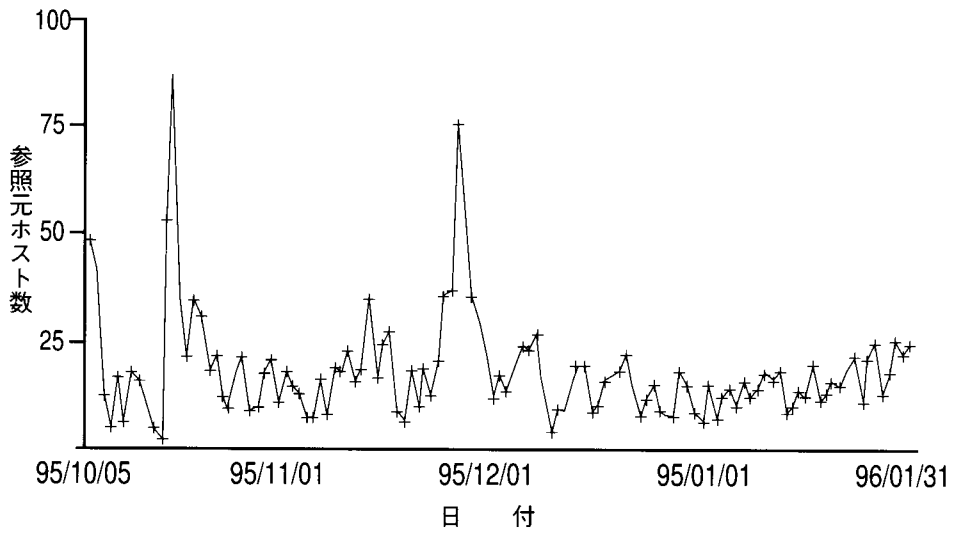


図2. 1日当たりの参照元ホスト数の推移

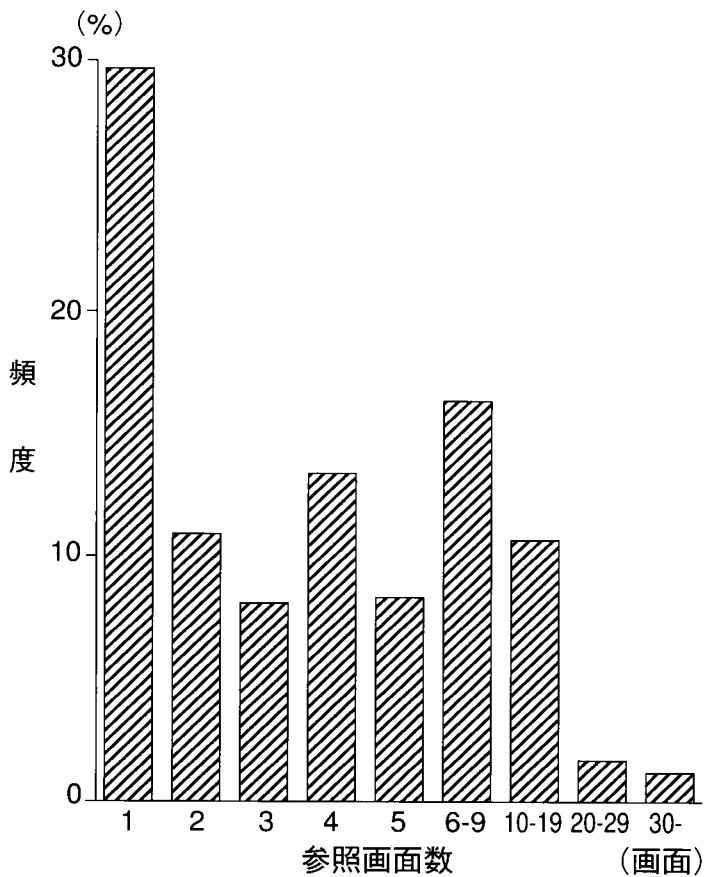


図3. 1アクセス当たりの参照画面数